

令和6年度 江戸川区立瑞江第二中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	自立・貢献・生き抜く力		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	安心して登校し、安全に生活し、満足して下校できる学校 ①確かな学力を身に付け進路を切り開く生徒 ②豊かなこころ・人間性を磨く生徒 ③健康な体づくりに積極的に取り組む生徒 ①自己のライフ・ワークプランの実現 ②人間味あふれる教育の実践 ③服務の厳正 ④向上心と授業改善
前年度までの本校の現状	成果	落ち着いた学習環境を創りあげ、全教科等で協同的な学習を取り入れ、生徒同士の学び合いを実現することができた。全国学力・学習状況調査の結果は、ここ数年右肩上がりである。SDGsの視点で環境問題や教育格差、ジェンダー平等などについて教科等横断的に調べ、課題解決の方策を考え、発表することができた。	課題	新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、地域行事等を含む様々な教育活動を復活させるに当たり、単純にコロナ前に戻すのではなく、働き方改革とscrap&buildの視点で改めて各教育活動を見直し、ポストコロナ時代の教育課程の在り方を学校全体で考え、学校マネジメントの視点を取り入れた新しい教育課程を構築すること。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己（学校）評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○授業改善の推進	○学力調査や定期考査の結果を分析し、生徒の課題に正対した学力向上プランを作成・実施	○学力調査における平均正答率を3ポイント以上向上	B	B	B	全国学力・学習状況調査では平均正答率で都に並んだ。ここ数年同様の傾向にあり、授業改善が推進されていると考える。	B	学校評議員会で授業の様子を見たが、どの学級も集中して授業を受けていた。	B	年度ごとの難易度に差があるため、学力調査の平均正答率を3ポイント以上向上という目標は達成できなかつたが都の平均には並ぶことができた。	B	プレゼンテーション能力の育成に力を入れ始めてから学力調査の成績が右肩上がりだと聞いている。取組を継続してほしい。	プレゼンテーション能力の育成に引き続き力を入れていく。
	○基礎・基本の確実な習得	○外部講師による数学・英語の補充教室を実施、学力低・中位層の基礎・基本の確実な習得を図る	○定期考査における達成率20%未満の生徒を3%以上低減	B	B	B	1学期の定期考査における達成率20%未満の生徒を3%以上低減については一部の教科を除き達成することができた。	B	点数だけでなく、個々の生徒の頑張りも見てあげて評価してもらえるとよい。	B	定期考査における達成率20%未満の生徒を3%以上低減については一部の教科を除き達成することができた。	B	外部講師による数学・英語の補充教室の参加生徒の学力の伸びを検証して学校評議員会等で報告いただけるとよい。	外部講師による数学・英語の補充教室への参加生徒数を向上させる。
	○読書科の更なる充実	○全学年で、読書科と総合的な学習の時間とを関連付けながら探究的な学習を実施	○生徒アンケートにおける「探究的な学習への取組」に対する肯定的回答を75%以上	B	B	B	読書科と総合的な学習の時間とを関連付けながら探究的な学習を推進している。	B	読書科については、プレゼンテーションの取組と関連させながら探究的な学習を一層充実させていきたい。	B	生徒アンケートにおける「探究的な学習への取組」に対する肯定的回答は85%であった。	B	プレゼンテーションの取組が教科の学習にも好影響を与えている可能性がある。取組を継続していただきたい。	プレゼンテーションの取組が教科の学習との相関関係について、検証し発信していく。
体力の向上	○保健体育の授業での体力向上	○保健体育の授業での補強運動の継続的な実施	○生徒アンケートにおける「体力・運動意欲向上」に対する肯定的回答を75%以上	B	B	B	保健体育の授業での補強運動を継続的に実施できている。	B	体力は何をするにも必要なものだと思う。取組を継続していただきたい。	B	生徒アンケートにおける「体力・運動意欲向上」に対する肯定的回答は81%であった。	B	日常的な運動は大切である。今後も運動を習慣化できるような取組を継続していただきたい。	保健体育の授業での補強運動を継続する。
	○運動習慣の定着	○休み時間等における主体的な運動を推奨、日常的な運動の実施による体力と運動意欲の向上	○生徒アンケートにおける「体力・運動意欲向上」に対する肯定的回答を75%以上	B	B	B	休み時間等における主体的な運動を推奨している。日常的な運動の実施による体力と運動意欲の向上が図られている。	B	日常的な運動の実施により「運動嫌い」を少しでも減らしていただけるようお願いしたい。	B	生徒アンケートにおける「体力・運動意欲向上」に対する肯定的回答は81%であった。	B	日常的な運動は大切である。今後も運動を習慣化できるような取組を継続していただきたい。	休み時間等における主体的な運動を推奨していく。
教育の推進 共生社会の実現に向けた	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	○ジェンダーフリー制服・水着、男女混合名簿の導入 ○不要な男女区別の廃止	○生徒アンケートにおける「学校生活への満足度」に対する肯定的回答を80%以上	A	A	A	ジェンダーフリー制服・水着、男女混合名簿の導入、不要な男女区別の廃止などを実現できている。	B	ジェンダーフリー制服・水着、男女混合名簿の導入など、具体的な取組をしていただけているものと思う。	A	生徒アンケートにおける「学校生活への満足度」に対する肯定的回答88%であった。	B	生徒が安心して登校し、安全に過ごせる学校づくりを今後も継続していただきたい。	引き続き、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実に努めていく。
	○副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	○学校行事等において交流及び共同学習を積極的に実施	○生徒アンケートにおける「学校生活への満足度」に対する肯定的回答を80%以上	B	B	B	運動会や宿泊的行事等において交流及び共同学習を実施できている。	B	運動会での6組と1年生の協力は素晴らしかった。	B	生徒アンケートにおける「学校生活への満足度」に対する肯定的回答88%であった。	B	運動会などの行事以外でも特別支援学級と通常の学級の生徒が交流する機会を御検討いただきたい。	交流及び共同学習の一層の充実、また副籍交流については、保護者や本人の意向も大事にしながら検討していく。
不登校・いじめ対応	○第1学年での宿泊学習の実施	○「友だちづくり」を主たる目的とした第1学年における宿泊学習の実施	○不登校出現率6%以下	A	A	A	「友だちづくり」を主たる目的とした第1学年における宿泊学習を実施した。不登校出現率6%以下を実現できている。	B	「友だちづくり」を主たる目的とした第1学年における宿泊学習は次年度以降も継続していただきたい。	B	不登校出現率6%以下は1・2学年では実現することができた。	B	不登校率の低減には、宿泊学習だけでなく、安心して通える学校づくりも影響していると考えられる。	引き続き、「友だちづくり」を主たる目的とした第1学年における宿泊学習を実施する。
	○教育相談機能の強化	○週1回の教育相談部会の開催とSC・SSW等の外部人材の活用	○生徒アンケートにおける「学校生活への満足度」に対する肯定的回答を80%以上	B	B	B	週1回の教育相談部会とSC・SSW等の外部人材の活用により配慮が必要な生徒への対応方針を全校で共有できている。	B	全校で生徒への対応方針を共有できていることは大変よい。	B	生徒アンケートにおける「学校生活への満足度」に対する肯定的回答88%であった。	B	SCやSSWにつなげることで不登校状態から登校できるようになった生徒もいると聞いている。連携を深めていただきたい。	引き続きSCやSSW等の外部人材を活用しながら配慮が必要な生徒への対応力を高めていく。

